

鹿児島県与論島から得られたアカヒレハダカハゼ *Kelloggella cardinalis* の記録

岩坪洗樹¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学研究科)

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ハゼ科ハダカハゼ属魚類 (Gobiidae: *Kelloggella*) は、両顎とも歯の先端が三叉しており、外側の列の歯が大きいこと、体全体が無鱗であること、頭部感覚孔がないこと、第1背鰭が6棘であること、第2背鰭条数が11-13であること、臀鰭条数が8または9であること、腸が細長いこと、第1背鰭が低く、第2背鰭と同長かわずかに長いこと、吻の側面が丸みを帯びること、脊椎骨数が11+15=26であることなどの特徴を有する (Hoese, 1975). 本属魚類は、インド・太平洋の熱帯域から亜熱帯域にかけて5種が分布しており、サンゴ礁や岩礁性海岸のタイドプールなどに生息する (Hoese, 1975; 鈴木・渋川, 2004; Larson and Murdy, 2001; Randall, 2005, 2009). また、日本国内からハダカハゼ属は、ハダカハゼ *K. quindecimfasciata* (Fowler, 1946) とアカヒレハダカハゼ *K. cardinalis* Jordan and Seale, 1906 の2種が報告されている (鈴木・渋川, 2004; 明仁ほか, 2013).

アカヒレハダカハゼはこれまでに、標本や水中写真に基づき日本国内では八丈島、屋久島、奄美大島、沖縄島、瀬底島、黒島、および西表島から記録されていた (Senou et al., 2002; 吉郷・中村, 2002; 鈴木・渋川, 2004; 明仁ほか, 2013). 2012年10月27日に鹿児島県与論町茶花与論港付近のタイドプールから2個体のアカヒレハダカ

ハゼが採集された。これらの標本はアカヒレハダカハゼの与論島からの初記録であるため、ここに記載し報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) にしたがった。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。胸鰭条数は左体側のものを計数した。生鮮時のアカヒレハダカハゼの体色の記載は、KAUM-I. 51463, 51464 の生鮮時のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、その標本のカラー写真は同館の画像データベースに登録されている。

結果と考察

Kelloggella cardinalis Jordan and Seale, 1906

アカヒレハダカハゼ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 51463, 体長 16.8 mm, KAUM-I. 51464, 体長 13.6 mm, 鹿児島県与論町茶花与論港付近のタイドプール (27°03'40"N, 128°25'02"E), 水深 0.5 m, 2012年10月27日, 木村祐貴.

記載 背鰭 VI-I, 12; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5. 体各部の体長に対する割合 (%) : 頭長 19.0-23.8; 胸鰭基底での体高 13.7-16.7; 胸鰭基底での体幅 8.3-11.3; 眼径 3.6-4.8; 吻長 3.6; 両眼間隔 3.6-4.2; 主上顎長 5.4-6.5; 第1背鰭基底長 14.9-19.6; 第2背鰭基底長 26.8-33.9; 臀鰭基底長 12.5-16.1; 尾柄長 17.3-20.2; 尾柄高 8.3-11.9. 頭

Iwatsubo, H. and H. Motomura. 2013. Records of *Kelloggella cardinalis* (Gobioidae: Gobiidae) from Yoron-jima island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 39: 59-61.

☑ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

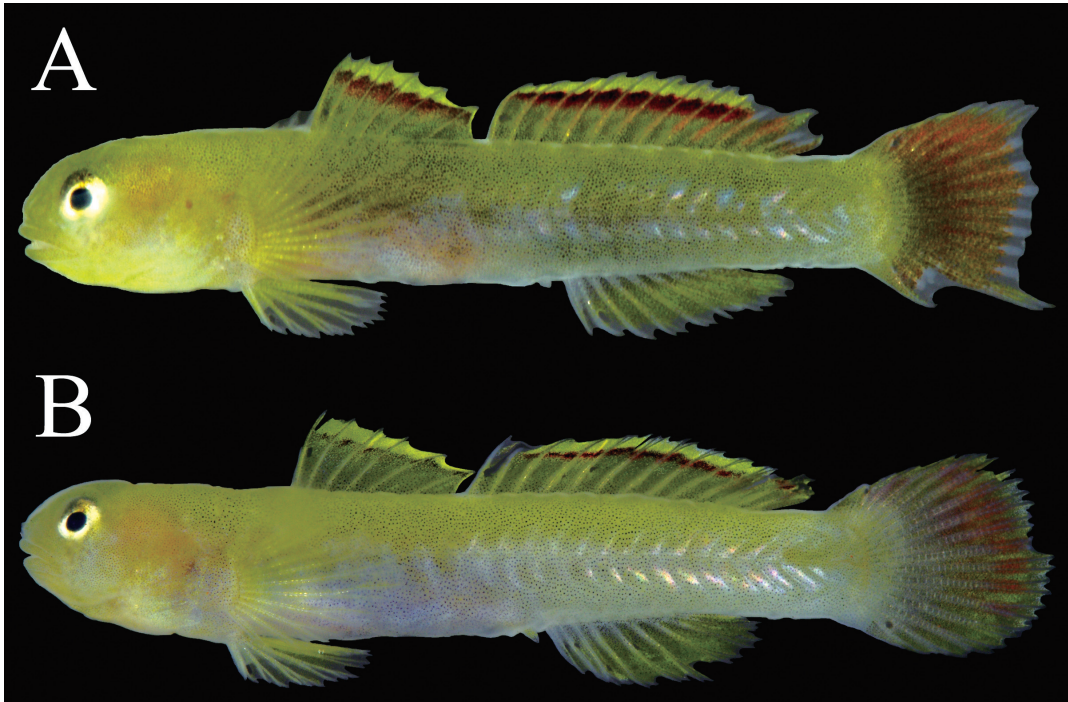


Fig. 1. Fresh specimens of *Kelloggella cardinalis* from tide-pool near Yoron Port, Chabana, Yoron-jima Island, Kagoshima Prefecture, Japan (A: KAUM-I. 51463, 16.8 mm SL; B: KAUM-I. 51464, 13.6 mm SL).

部は丸く、よく側扁する。体部は細長く、やや扁した円筒形である。口は端位で、口裂は傾斜し、主上顎骨後端は眼中央直下に達する。頭部に感覚孔はなく、頬は滑らかである。体全体が無鱗である。吻端は下顎先端よりやや突出する。眼は頭部側面に位置する。体に側線がない。背鰭始部前方の正中線上は滑らかである。背鰭は2基あり、第1背鰭は第2背鰭よりやや高い。背鰭棘はすべて軟らかい。臀鰭始部は第2背鰭第3軟条基部直下に位置する。臀鰭基底は第2背鰭基底の半分程度である。背鰭と臀鰭の後縁は尖り、それぞれの軟条はすべて分枝する。胸鰭の後端は背鰭第6棘基部直下に達する。腹鰭は完全な吸盤である。腹鰭始部は胸鰭基底直下に位置する。胸鰭の後縁は丸い。肛門は第2背鰭第2軟条基部直下に位置する。尾鰭後縁は丸い。

色彩 頭部と体部は緑色がかった半透明。眼下に数個の黒色点がある。背鰭と尾鰭は黄色がかった橙色で、背鰭の縁辺は黄色。臀鰭、胸鰭、および腹鰭は緑色がかった半透明。

分布 日本国外では台湾、フィリピン、マリアナ諸島、バヌアツ、トンガなどの西太平洋およびサモアに分布する (Hoese, 1975; Randall and Lim, 2000; Larson and Murdy, 2001; Myers and Donaldson, 2003; Randall et al., 2004; 鈴木・渋川, 2004; Randall, 2005)。国内では八丈島、屋久島、奄美大島、与論島、沖縄島、瀬底島、黒島、および西表島から記録がある (Senou et al., 2002; 吉郷・中村, 2002; 鈴木・渋川, 2004; 明仁ほか, 2013; 本研究)。

備考 本標本は、体に側線がないこと、口裂が傾斜すること、頬が滑らかであること、腹鰭が完全な吸盤であること、背鰭始部前方の正中線上は滑らかであること、背鰭が2基あること、第1背鰭は6棘であること、第2背鰭は1棘12軟条であること、背鰭棘はすべて軟らかいこと、臀鰭基底は第2背鰭基底の半分程度であること、臀鰭は1棘8軟条であること、体に模様がないこと、背鰭と尾鰭が橙色であることなどからアカヒレハダカハゼ *K. cardinalis* と同定された。

アカヒレハダカハゼはこれまでに八丈島, 屋久島, 奄美大島, 沖縄島, 瀬底島, 黒島, および西表島から記録されていた。本報告におけるアカヒレハダカハゼの採集記録は, 標本に基づく本種の与論島からの初記録である。

アカヒレハダカハゼは, サンゴ礁域の波の荒い岩礁性海岸に生息し, 石灰岩の海蝕崖にある潮間帯上部のタイドプールの穴に複数でみられることが知られている(鈴木・渋川, 2004; Randall, 2005)。本報告でアカヒレハダカハゼが得られた環境も, 波の荒い石灰質の岩礁性海岸の潮間帯上部にあるタイドプールであった。

■ 謝辞

与論島での調査・滞在に際して鹿児島大学与論活性化センターの高橋 肇氏, ヨロンダイビングサービスの竹下敏夫氏, 与論町漁業協同組合の酒匂兼峯氏をはじめ職員のみなさま, 与論町役場の龍野勝志氏をはじめ職員のみなさま, 与論町商工会の岩村中里氏をはじめ職員のみなさま, 国立科学博物館の松浦啓一博士, 三重大学大学院生物資源学研究所の木村清志博士, 鹿児島大学魚類分類学研究室の吉田朋弘氏, 西山 肇氏, ならびに田代郷国氏には多大なご協力をいただいた。広島大学大学院生物圏科学研究科の木村祐貴氏には, 与論島での調査・滞在でのご協力のほかに, 標本採集に際して多大なご協力をいただいた。長尾自然環境財団の渋川浩一博士には本種の同定に際してご協力いただいた。また, 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同大魚類分類学研究室のみなさまには標本整理などのご協力をいただいた。以上の諸氏に対して深く感謝の意を表す。なお本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県

産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト(浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041)の援助を受けた。

■ 参考文献

- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347-1608, 2109-2211. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hoese, D. F. 1975. A revision of the gobiid fish genus *Kelloggella*. Records of the Australian Museum, 29 (17): 473-484.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Bulletin of Cranbrook Institute of Science, (26): i-xi + 1-186.
- Larson, H. K. and E. O. Murdy. 2001. Families Eleotridae, Gobiidae, pp. 3574-3603. K. E. Carpenter and V. H. Niem (eds.), Species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes, part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals. FAO, Rome.
- Myers, R. F. and T. J. Donaldson. 2003. The fishes of the Mariana Islands. Micronesica, (35/36): 598-652.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific: New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Randall, J. E. 2009. A review of the gobiid fishes of Easter Island, with description of a new species. Aqua, International Journal of Ichthyology, 15 (4): 177-190.
- Randall, J. E. and K. K. P. Lim. 2000. A checklist of the fishes of the South China Sea. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, (8): 569-667.
- Randall, J. E., J. T. Williams, D. G. Smith, M. Kulbicki, G. Mou Tham, P. Labrosse, M. Kronen, E. Clua, and B. S. Mann. 2004. Checklist of the shore and epipelagic fishes of Tonga. Atoll Research Bulletin, (502): i-ii + 1-35.
- Senou, H., G. Shinohara, K. Matsuura, K. Furuse, S. Kato and T. Kikuchi. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo Japan. Memoirs of the National Science Museum, Tokyo, (38): 195-237.
- 鈴木寿之・渋川浩一. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 II. 比和科学博物館標本資料報告, (3): 85-137.